

2026.2月号 | VOL. 17 | FEBRUARY 2026

haleta

社会福祉法人 友朋会 障がい者支援施設 サニーサイド



サニーサイド秋まつり &クリスマス会

アール・ブリュット活動報告
サニーサイドメモリーズ
視察研修について
サニーサイドからのお知らせ

<https://sunny-side.or.jp>



ごあいさつ

2026年が始まりました。

今年の干支は「午(うま)」です。馬が力強く大地を駆けるように、サニーサイドも新たな活力を持って、次なる一歩を踏み出す一年にしたいと考えております。

実は、サニーサイドも午年生まれ。今から48年前の昭和53年4月1日(1978年)に誕生しました。

当時は、施設を利用する際は行政によって各施設に「措置」されていました。利用者や家族が希望できるのは種類までで、今のように施設を選ぶことはできませんでした。実際にどの施設に入所・通所することになるのかは、行政が決定していたのです。

そのため、当時30名の入所利用者の方の出身地は約20市町村にものぼり、遠くは阿蘇、天草、人吉・球磨、八代など県内全域から入所していたのです。今から考えるととんでもない話ですが、当時はこれが「普通」でした。

その「普通」も時代を経て、社会が変わり、法や仕組みも変わり、日本のみならず世界も変わっています。新たな価値観や多様性が認められ、その概念自体が変化している今、「普通って何なんだろうな?」と感じることが多々あります。

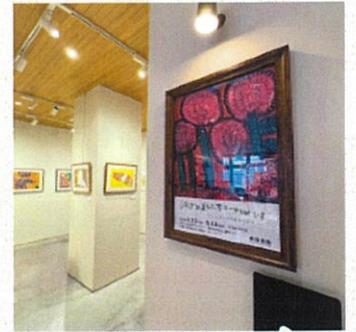
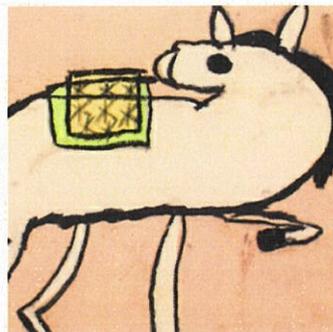
誰かにとっての「普通」が、他の誰かにとっても同じであるとは限りません。一人ひとりが異なる背景や価値観を持ち、それぞれの「自分らしさ」を大切に。そんな、多様な「普通」が共存する社会への歩みが加速しているように思います。

これは、私たちが行っているアール・ブリュット活動によって、より気づかされていると感じています。アール・ブリュット活動では、いわゆる普通や平均をゴールに設定していません。その際に私たちが大事にしていることは、「その人がその人らしく描ける環境をどう整えるか」です。それぞれの利用者の方に合わせて、個別にサポートすることを心掛けているつもりです。

これは日常の支援にも同じことが言えると感じています。普通という言葉に甘えることなく、支援する側が設定した枠に相手を当てはめることを慎み、利用者の皆さん一人ひとりが自分らしくいられる枠を一緒に作り上げる、そんな一年にしたいと思っています。

実は私も午年生まれ。年男です。少し?太めの午ですが、皆様と一緒にこの一年を駆け抜けたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〈宮崎 嗣大〉





第11回生の芸術Artbrut展覧会が開催 サニーサイドから新たに2名の作家が選出



1月14日(水)から25日(日)の期間、熊本県立美術館本館で「第11回生の芸術アール・ブリュット展覧会」が開催されました。この展覧会はアール・ブリュットパートナーズ熊本が毎年開いているもので、今年は県下25名と韓国から参加した4名の作家による164点の作品が展示。サニーサイドからはこれまでで最大人数となる6名の作家による作品29点が展示されました。また今展覧会ポスターのメインビジュアルには、大林健吾さんの作品が採用され、開会式では大林健吾さん本人がテープカットに参加。くまモンと一緒にハサミを入れました。

さらに、今年は新たに堤良太さん、吉浦真帆さんの作品8点が選出。お2人はサニーサイドの利用開始後にアート活動を始め、少しずつ作品の数を増やしてきました。開会式では緊張の面持ちでしたが、展示されている自分の作品を観ると笑顔も見られ、会場全体の雰囲気も含めてとても楽しんでいるようでした。

サニーサイドはアール・ブリュット展覧会に第1回から継続して作品を出品しており、「今年も選出おめでとうございます！」「作品がデザインされたグッズを買いましたよ！」と話しかけてくださるゲストの方が年々増えてきているように感じます。

話しかけられた利用者の皆さんは照れながらも嬉しそうに受け答えされていて、作品の展示が社会との架け橋になっていることを強く感じるとともに、職員もとても誇らしい気持ちになりました。

**サニーサイドの
出品作家**

大林健吾さん、堤良太さん、平山由美さん
古川好夫さん、古川好夫さん、吉浦真帆さん

〈大森 天登武〉

サニーサイドアール・ブリュットが 新聞&広告誌で掲載されました！

最近ではサニーサイドのアール・ブリュットについての問い合わせや、取材をお受けすることも増えてきました。11月には「サニーサイドの画家たち展」について読売新聞から取材の依頼があり、画家たち展のみならずレンタルアートやアート活動など、細かな事業内容やサニーサイドの特徴について紙面へ掲載していただきました(12/9掲載)。

また、美里町にある社会福祉法人伸生紀の方からは、法人発行のフリーペーパーへの掲載をしたいとお話をいただき、2号に渡ってアール・ブリュットとサニーサイドの取り組みについて特集していただきました！



作品をデザインしたグッズ が続々と完成！



販売を待ち望む声の多かった、4種類のアートグッズが新たに完成しました！利用者や職員の想いが詰まったこれらの新作商品は、ギャラリーミモザで購入することができます。お問い合わせもお待ちしています！

SUNNYSIDE MEMORIES

秋まつり

心地よい秋晴れの中、800名を超える皆さまにご来場いただいた秋まつり🍁
 今年はもっこすファイヤーのお2人と林田雪菜さんにMCを務めていただき、会場は終始
 にぎやかな雰囲気。ステージイベントや縁日、マルシェも大好評で、たくさんの笑顔
 と笑い声に包まれた一日となりました！

11.15 (SAT)



SHOES 販売会

夕ヨダ靴流通センターのみなさまに訪問販
 売にお越しいただき、施設内が靴屋さんに☺
 足のサイズや形をしっかりと測ってもらい、そ
 れぞれに合った靴を確かめながら、楽しいお
 買い物時間になりました！ 7.31 (THU)



納涼祭

夏のお祭りの雰囲気を味わって
 頂こうと、たこ焼きビンゴや射
 的、魚釣りなどのミニゲームを開
 催！

8.07 (THU)



HALLOWEEN

10.31 (FRI)



第2回
しまむら
販売会

11.19 (WED)

今回で2回目となる、ファッションセンターしまむらの移動販売★施設ホールに洋服がずらりと並び、服を合わせながら選ぶ楽しさを存分に味わっていただきました。



YOU ME
TOWN
光の森
11.29 (SAT)

ROUND
1
12.14 (SUN)



イルミネーション
12.18 (THU)

買い物や食事を楽しんだり、体を動かしたり、季節のイルミネーションを眺めたり。行く先々でたくさんの楽しみを大満喫！

グループホーム
11月のシユト出



Merry
Christmas

クイズやマジックショー、ダンスを行い、会場は大盛況★ダンスでは職員と利用者が一緒になって体を動かし、最後はサンタとトナカイからプレゼントも受け取りました！

12.25 (THU)



忘年会
12.31 (WED)

2025年ラストイベントとなる忘年会は、カラオケ大会で締めくくりました。得点を競い合い、最後はみんなで乾杯。笑顔溢れるひとときとなりました！



新年会では今年の抱負を語り合い、おみくじで新年の運試し。福袋の中をドキドキしながら確認する利用者の皆さんの姿が微笑ましいです。

新年会
1.01 (THU)



視察研修

今年度サニーサイドでは、法人のサービス向上と職員の支援力向上に繋げるべく、県内外5ヶ所の福祉施設を訪問して研修を実施しました。その内3施設の研修の様子と、収穫や学びについてまとめてみました。

【利用者支援の充実を目指して】

10/8

障がい者支援施設 清香園（宇城市）

この班では、ユニット型の支援体制について学ぶことを目的に視察研修を実施しました。

清香園は昨年春に新しい施設建物が完成し、以前の場所から移転されました。新しい施設ではユニット制が導入されていて、利用者の方一人ひとりに寄り添ったサービスが提供されていました。各ユニットには担当の職員が配置されていて、安心して過ごせる環境が整っているのも印象的でした。

その他、外国人職員の方々も積極的に受け入れており、多様な人材によるケアの実現や教育にも力を入れている様子が伺えました。設備面ではロボット掃除機による清掃や、睡眠の状態を把握できる「眠りスキャン」、リフト付きの入浴機械など、最新の技術が活用されていて、利用者さんの変化にも柔軟に対応できる環境が整っていました。

これからは地域に開かれた施設づくりを目指して、地域の皆さんとの交流や情報発言にも力を入れていきたいとのことでした。今回の研修では、サニーサイドとしても学びの多い、充実した時間を過ごすことができました。

〈小北 京佑〉



【生活介護で取り組むART】

10/24

障害者支援施設 しょうぶの里（西区）

施設の第一印象としては、施設全体が伸び伸びとしていて、自由度の高さを感じました。

特に創作活動の様子を見学した際、利用者の方一人ひとりがその人らしさをそのまま表現されていて、作品からはその方の思いや感性を強く感じる事が出来ました。環境整備も個人の才能と可能性を最大限に引き出せるような工夫がされており、個々の特性や得意分野に合わせて題材や画材が選ばれていました。机の配置も落ち着いて取り組めるようにされていました。以前は一つの題材を置いて全員で同じものを描いていたそうですが、現在は落ち着いて取り組めるよう題材や机の配置などにも配慮がなされていました。

サニーサイドとは雰囲気も環境も違ってもとても良い刺激になりました。利用者の方の意思決定を大切に、今後も支援にあたっていきたいと思います。

〈小北 幸子〉



【ワクワクが詰まったアトリエ巡り】

11/19

【工房まる（福岡市南区）】

アート活動や作品のレンタルなどにおいて先駆的な活躍をされている、工房まるの2つのアトリエに視察見学に行ってきました。

まず1つ目の”野間のアトリエ”では、陶芸、木工、絵画活動を提供していました。陶芸の活動では、お皿や湯呑など沢山の種類の作品を制作していました。身体に障害がある方でも、状態に合わせた作業用具を作成し制作を行っていました。印象に残っている場面としては、手の握力が弱い利用者の方に対して、ボールを転がして粘土を伸ばす作業を提供されていたことです。支援者の方は、「利用者の方の能力に応じて何が出来るか考え、その方の能力を最大限に活かせる支援を常に考えています」と話しておられました。

2つ目の”田村のアトリエ”では、絵画制作をメインに行っていました。ここでは利用者の方が好きな画材を使用し、描きたい物を自由に描いていました。オリジナルのキャラクターを制作する方や、絵を10メートル程の巻物のようにして一つの作品にしている利用者の方もいました。ご自身で制作した作品の説明を自信満々に説明され、生き生きと活動に取り組んでいることも伝わってきました。また、作品ギャラリーやアートグッズのショップも併設されており、見ていてワクワクする作品やグッズをたくさん見ることができました。

今回の見学で、アート活動での表現や支援について新しい視点を得ることが出来ました。今後は利用者の表現をさらに引き出せるよう作品づくりのお手伝いと、アート活動と就労の結びつきを意識した取り組みを進めていきたいと思います。

〈永田 精一郎〉



グラウンドが完成

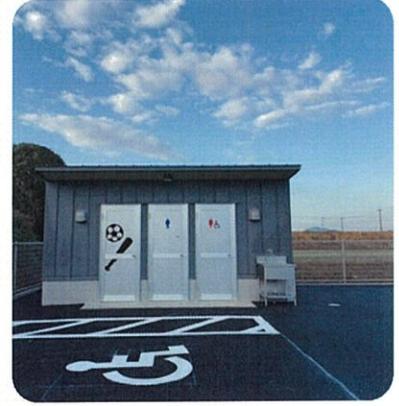
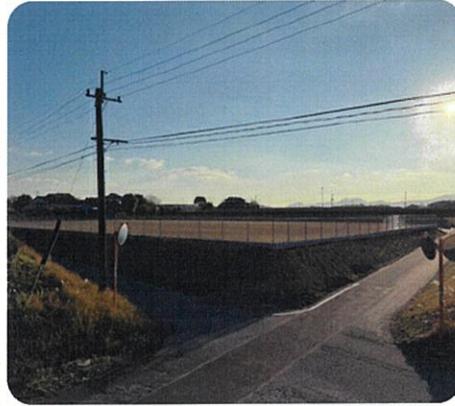
サニーサイドの敷地を出てすぐ、道を一本はさんだ場所に多目的に使用できるグラウンドが完成しました。これまで芝生広場や施設周りのウォーキングを中心に、室内でのレクリエーションや軽運動を行ってききましたが、スペースの問題もあり約40名の利用者を少人数に班分けしたり、活動日を分ける必要があるなど、支援効率面の課題も残されていました。

そこでこのグラウンドです。

広々としたスペースを使って、利用者全員がみんな揃って体を動かすことができます。グラウンド・ゴルフのコースも2つできますし、利用者がやってみたいと話していたモルックも伸び伸びプレイすることができます。利用者の身体機能の維持と健康増進に向けて、新たなプログラムを提供していけたらと思います。

また、来年度からは地域イベント等でグラウンドを活用していく予定です。運動やイベントを通して地域交流を深めていき、サニーサイドがより身近な存在になれば幸いです。

〈大森 天登武〉



サニーサイドの現場から ”こだわり行動へのアプローチ”

本年度10年ぶりに入所支援と生活介護の担当へと異動となり、Aさんの担当職員となりました。

Aさんには多くのこだわり行動があり、その行動が他の利用者に影響を与えてしまうことが課題でした。担当になって感じたことは、こだわり行動についてきっかけや原因が分からないものも多くある中でも、解決の糸口を見つけやすい物に対しては速やかに対応する事でこだわりの軽減に繋げることが出来るということです。

例えば、トイレのスリッパを決まった位置に並べるというこだわりについてです。活動中、誰かがトイレに行くと席を立てスリッパを整える行動を繰り返し、日中活動に集中できない状態が続いていました。その中で、Aさんと関わる職員らと話を重ねる内に、スリッパへの躓きによる転倒の恐れを考慮してトイレのドアにスリッパの並べ方の写真を掲示した時期から並べることへのこだわりが強くなった可能性がある、との意見が挙がりました。そこで、写真を掲示する支援の結果利用者それぞれがスリッパを並べることも定着してきていたので、その掲示写真を外してみました。結果的には、視覚的な刺激を遮断できたからか、その後もスリッパ並べは続いてこそいますが日中活動時の並べる回数は半減しました。今後も転倒のリスクを鑑みながら、支援を継続していきこだわりの解消を目指していく予定です。

1つのこだわりが減少するとまた新たなこだわり行動が生まれる状態であり、現在はトイレトペーパーの使用過多を減らすべく対応、支援を考えているところです。職員間で協力しながら、Aさんの日常が楽しく穏やかな時間になるよう、支援の検討を続けていきます。

〈渡辺 真由美〉



新規利用者ご紹介



齋藤 健 様
(さいとう たけし)

R7年12月から
障がい者支援施設サニーサイドを
ご利用されています

新任職員ご紹介



生活支援員 【趣味】
杉山 清一 トレッキング、釣り
(すぎやま きよかず) 温泉巡り

新たに送迎の職員が仲間に加わりました！
これからよろしくお願いします！

SCHEDULE

- 2月 節分会
- 3月 家族説明会、ひなまつり会
- 4月 春の会、長崎書店展示
- 5月 端午の節句、移動販売(しまむら)
- 6月 屋外絵画
- 7月 七夕会

INFORMATION ~お知らせ~

新たな仲間が加わりました！

来年度4月から、5名の新卒職員採用が内定しています。社会福祉や介護の勉強を中心に学びを深めてきた学生たちで、現場でのソーシャルワーク実習や、社会福祉士の資格取得に向けた勉強を経てサニーサイドに入職する予定です。専門性の高い支援計画や熱量あるイベント企画など、法人として前に進み続けていくには若い力・発想が必要です。現職員の経験や支援技術とうまく組み合わせながら法人を盛り上げてまいりますので、ぜひ期待していただけたいと思います！

「サニーサイドの画家たち展」の開催 4/9~5/10 (予定)



熊本市上通りの長崎書店ギャラリーで、今年も「サニーサイドの画家たち展」が開催されることとなりました。去年の展示会をきっかけに、ギャラリーミモザに来館される方やグッズを購入される方も増えてきました。

今年もギャラリーの雰囲気に合った、心が楽しくなる展示を考えています。

看板がリニューアル！！

県道38号線沿い、サニーサイドの目印となる看板をリニューアルしました。少しでも多くの方にギャラリーミモザの存在を知っていただけたら。ささやかな思いを込めて、作家の作品がデザインされた法人看板を設置しています！足を止めて見る機会は少ないかとは思いますが、サニーサイドをあらゆる象徴として、今後も見守っていただけたら幸いです。



社会福祉法人 友朋会
障がい者支援施設 サニーサイド

〒861-1213
熊本県菊池市泗水町南田島1791-1

☎ 0968-38-4448

☎ 0968-38-2850

✉ info@sunny-side.or.jp



Home page



Instagram

